

全国ネットワーク理事の池田徹さんからの情報です。

みなさま

以下は、生活クラブ風の村の事業所長に宛てて送信したメールを一部再構成したものです。

所長、副施設長のみなさま

外出自粛、会議中止で、会社か自宅生活がほとんどの日常になって、ずいぶん経ちました。

今の状況では、緊急事態宣言は、おそらく延長されるでしょう。長い戦いになりそうです。

参考になるのは、大ぜいの集団感染がおきた北総育成園のケースです。19日の毎日新聞の1面トップで、詳しい現状報告がされていました。同園の場合は、感染者が入居者の7割以上にあたる51人、職員67人中40人、家族を含めると合計118人の集団感染になりました。このため、法人内の他施設の職員の応援を得、千葉県等を通じて医師、看護職員の支援を得ながら、日々、ギリギリの物的、精神的な状況の中で業務をおこなっています。

入所系事業所で感染者が出た場合の対応は、1～2名の感染者が出た場合と、集団感染がおきた場合の2通りの対応が求められると思います。

1. 1～2名の感染者が出た場合の対応は、厚労省発出の添付の文書の内容を遵守しつつ、保健所の指示に従って対応するものとします。
2. 集団感染をおこし、感染及び感染の恐れのある多くの入居者のケアをおこなうことになった場合

① もちろん、保健所の指示に従うことが基本ですが、新聞報道によると、北総育成園では、軽傷・中等者は施設内で治療をおこなうことになったため(医療崩壊を防ぐために、今後は、入居系社会福祉施設で集団感染がおきた場合は、同様の措置になることが予想される)施設内を3つのゾーンに分けて、感染の拡大を防止しているとのこと。ウイルスが飛散しやすい居住スペースをレッドゾーンとして、防護服を着た職員や医療チーム以外は出入りできません。同園には、感染症専門医や看護師によって医療対策本部が設置されていますが、体育館をクリーンゾーンとして、居住スペースと体育館を結ぶ廊下や防護服の着脱場所をセミクリーンゾーンにして、感染者や濃厚接触した職員はクリーンゾーンには入らないよう動線を分けているとのこと。

入居系施設では、最悪の場合、これと同様の対応が必要になると思いますので、どのようにゾーニングするかをあらかじめ考えておいてください。クリーンゾーンを設けることは、外部からの物資等の受け渡しをおこなうためにも有効だと思います。

2 DWAT チームの編成について

北総育成園へは簡単に食べることができるものが欲しいとの要望を受けて、湯煎のみで食べることができる非常食（おかゆ、野菜スープ）をお渡しし、ちょうど今、レインコート等の防護服代替品が必要かどうかを問い合わせています。できれば、人的支援をしたいところですが、感染の危険性を考えると、そこに踏み込むことは躊躇します。

しかし、北総育成園では、母体法人、さざんか会の他施設の職員が応援に入っています。もし、生活クラブ風の村の施設で同様の事態が発生した場合、同じように他施設からの応援が必要になります。現在は「エリア内」を基本としていますが、それにしても、応援に入る職員には、感染の恐れがありますから、強制することはできません。有志を募ることになります。そして、応援要員として登録してくれた職員には、平時から、防護服の着用その他、実際にレッドゾーンには行ってケアをおこなう手順などを訓練しておくことが必要ではないかと思えます。感染者数によっては、「エリア内」の規制を外すことも必要になります。その場合、応援可能者を登録して、訓練を受けておくことで、応援に伴って感染が拡大する可能性を低くすることができます。

さらに、今後、他法人で北総育成園のような集団感染がおきることは充分あり得ます。その際、応援登録をした職員の中から、有志が他法人の支援にはいることも必要になるでしょう。長い付き合いになる新型コロナとの闘いにおいては、法人を超えた助け合いが不可欠です。医療者には、災害時に緊急支援にはいる DMAT (Disaster Medical Assistance Team)、すなわち災害派遣医療チームがあります。最近、福祉の世界でも、都道府県単位で DWAT (W は、Welfare、Medical(医療)が Welfare(福祉)に変わっている) すなわち災害派遣福祉チームができてきています。

他法人への支援をおこなうことも想定したチームを「風の村 DWAT」として結成して、感染症対応はもちろん、本来の災害派遣をおこなうことにします。

一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク 理事
社会福祉法人 生活クラブ 風の村 理事長
特定非営利活動法人ユニバーサル就労ネットワークちば 理事長

池田 徹